

名古屋地理学2005年度研究報告会プログラム

日時：2005年6月25日（土）10:00-16:30 場所：愛知大学車道校舎10階1001教室

報告1 (10:00-11:00) 座長：溝口晃之

溝口常俊、高橋誠（以上、名古屋大学環境学研究科）、伊藤絵美、工藤邦史、杉村政徳（以上、名古屋大学文学部学生）

忘れられた日本の景観「島畑」 - 地域環境史の視点 -

本研究では、まず、地域環境史が、人間集団と自然環境とを地域をめぐる生産・生活の歴史的展開から総合的に捉える営みであることを理論的に示した上で、現在愛知県一宮市丹陽町三ツ井付近に広範に見られる「島畑」の景観を取り上げ、その分布や形態などの特徴、島畑をめぐる生活誌、その歴史的な展開過程、とりわけ消滅と再編などについての実証的に概観する。結論的に言えば、水田と畑とは農村の生産空間として、「セット」として捉えられる。近世以降の畑作物の商品化が沖積低地において島畑の成立を後押ししたが、近代以降の生産（力）主義の農業政策と兼業化などによる農業労働力の流出などによって水田単作が顕著になるに従って再編されるようになった。最近、例えばファーマーズ・マーケットなどを介したオルタナティブな都市と農村との結び付きによって、島畑が再び注目されるようになり、そのことが水田と畑とを統合的に捉える農村の生産構造に対する新しい洞察を提供している。

報告2 (11:00-12:00) 座長：安積紀雄

林 上
（名古屋大学環境学研究科）

企業サービス業と知識サービス・地域ブランドの地理学

第3次産業部門で新たに生まれつつある経済活動については、情報や知識の重要性を重視し、これまでとは異なる経済社会が訪れたことを強調するか、あるいは、現在、起こっているのは労働力の分業深化や専門分化であり、細分化された生産工程に注目が集まっているにすぎないか、大きく2つの考え方がある。こうした経済活動分野では、サービスを構成する情報、知識、システムの相対的優位性や競争力の強いものほど評価が高いが、優位性や競争力はどのようにして獲得されるのであろうか。サービスを重視し、国際的スケールで経済活動を展開する企業は、母国に対する地域イメージを利用しながら、自らのブランド浸透に努めている。本報告では、上述した諸点を中心に、企業サービス業と知識サービス・地域ブランドの地理学について考えを述べる。

評議員会 (12:00-12:30)

昼食休憩 (12:30-13:15)

報告3 (13:15-14:15) 座長：大塚俊幸

大城純男
（名古屋市役所）

日本の大都市圏における人口成長と集積の経済

大都市雇用圏における産業別就業人口の変化の分析から、都市における集積の経済や社会資本の役割について考察する。

報告4 (14:15-15:15)

座長：伊藤健司

森下佳之
(名古屋大学大学院生)岐阜県多治見市の中心商店街における空
き店舗再利用の阻害要因と参入過程

全国の多くの地方都市には活気がない。シャッター通りと揶揄されるような空き店舗の立ち並ぶ商店街が、厳しい零細小売業の現況を象徴している。地方都市では自治体を中心商店街を活性化させるため多額の予算を計上し、様々な政策支援が行なわれている。しかしながら、そのほとんどは解決への活路を見出せない。商店街問題のなかで空き店舗問題は活性化の大きな弊害となっている。いったん空き店舗になると商業機能としての再生は困難である。なぜなら、空き店舗問題には家主側の賃貸に対する消極性と家主・借り手相互間のミスマッチという2つの要因が深く関係しているからである。空き店舗の商業機能としての再生を考えた場合、家主が賃貸行動をとり、さらに借り手との間で賃貸契約が成立することが絶対条件である。本研究では、岐阜県多治見市の中心商店街を事例に、商業機能としての再生を阻害している2つの要因に着目する。これらの要因は空き店舗の状態変化を大きく左右するため、要因を詳細に分析すれば、空き店舗の再利用メカニズムが明らかになる。以下の2点が本研究の主な分析結果である。1)家主の消極的な賃貸意志は、空き店舗の建築構造上の問題や借地権問題、所有形態によって強く規定されている。2)市場的な取引とは別に、家主と借り手の私的な関係で成立する非市場取引が存在し、空き店舗の再利用を促進する働きをしている。

休憩 (15:15-15:30)**報告5 (15:30-16:30)**

座長：伊藤 薫

神頭広好
(愛知大学経営学部)わが国大都市における集積・非集積の経
済に関する空間的考察

本研究では、平成14年の商業統計調査（立地特性別）にもとづいて、わが国大都市における商業集積地および非集積地の経済効果、事業所の立地と商業地への経済効果との因果関係、大都市内の空間的抵抗係数、商業地別の特化係数およびそこから導かれる多様性などの分析を試みる。なお、分析の手順については以下の通りである。1. 商業集積地の販売額と非集積地の販売額。2. シンプルな因果連鎖モデル。モデル1 昼間人口による集積は直接に商業集積地の販売額に影響を与えるが、それと同時に集積の経済は企業経営者の収入や資産に影響を与え、それによって彼らの購買力が商業集積地の販売に影響するケース。モデル2 事業所の立地数が商業集積地および非集積地（オフィス街、工場地、住宅地）の経済効果に関する因果連鎖モデル。3. 商業集積地販売額の住宅地販売額弾力性。4. 集積の経済に関する推計。5. 大都市の集積の経済に関する推計。6. 大都市の非商業集積経済に関する推計。7. 大都市の駐車場有無による商業集積経済に関する推計。8. 商業集積地-非集積地にもとづく空間的抵抗。商業集積地および非集積地における勢力圏を求めるために、ライリー=コンパースモデルを用いる。9. 特化係数にもとづく大都市の構造特性。(1)事業所に関する特化係数,(2)従業者に関する特化係数,(3)販売額に関する特化係数,(4)売場面積に関する特化係数。10. GISを用いての名古屋市の商業立地特性。

総会 (16:30-17:00)

時間はだいたいの目安です（発表時間：40分，質疑応答：20分）。
最初ご案内したときから1組の報告がキャンセルになりました。